

食育に専用ソフト開発

タブレット端末は直感的で操作しやすいため、「初めて扱う小学生でも、5分もあれば自在に操作できる」そうだ。画面表示を切り替えることで、1つの画面へ多様な情報を提供しやすい。

同会は地元産業を学ぶ小学校5年生の総合学習で、食育授業を実施している。学校教諭らとの綿密な打ち合わせで作成した進行は、漁業者や料理人の講演を授業の前半に

据え、生産現場に関する知識を得たうえで、専用ソフトの入るタブレット端末を使う流れとした。コンテンツは三陸沖に好漁場ができる理由や、地域の食文化を学べるほか、漁業・市場・加工など多様な産業を経て、食

仙沼の食文化の維持につながる」とした内容が、授業を通じ伝えられる。

■全校へメカジキメンチ

並行して同会は、気仙沼で扱いの多い魚のメニエー化を、地元加工業者や有名シェフらとの連携で進めている。第1弾として、6つの小学校で行っており、来月には中学生を招き、見学会を行うなど発信方法は多彩で「メカジキメンチコロタソフと進行シナリオあり」、「学校給食と連携」を開発、市内31の小中学校全校へ、5690一般公開を予定してお

個を納入し、学校給食で心を育む取り組みを実施しており、復興庁の「新しい東北」先導モデル事業に選ばれている。水産関連産業だけでなく、幅広い分野から協力を得ており、今回の学習用ソフトは、富士通との共同で

生徒らに提供した。

気仙沼は基幹産業の水産業を学ぶうえで、貴重な「生きた教材」が身近に多いが、一元化はされず、特に内陸地では、富士通との共同で

仙沼の食文化の維持につながる」とした内容が、生徒らに提供した。

気仙沼は基幹産業の水産物、そして東北「先導モデル事業」を通じて伝えられる。

り、会メンバー不在でも授業ができる体制が整備されていくという。

同会は地元水産業の関心を深め、食に感謝する